

和歌山だよいい

平成21年 10月号



温山荘（海南市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P8
3. お知らせ…………… P9～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



菊

「むこう側からものを見る」

少し前に和歌山のある民宿の女性経営者から「都会から客が来るんやけど、ししの肉なんか出して失礼にならんのかの？」と聞かれました。私は「都会の人にとって、しし肉はとても珍しいんだから、それこそ喜ばれますよ。失礼なんてとんでもないですよ」とお答えしました。

和歌山は、自然も、産物も人情も素晴らしいのですが、それを生かして我々の生活を考えていく時には、この和歌山が外から見るとどう映るかということを考える必要があります。

観光客は、自分の日常とは違うものを発見しに来るのだから、都会にあるようなものを作ってしまうと飽きられます。

道路の話だってそうです。こちらから見ると家の前の道は舗装されたし、もうこれ以上作っても仕方がないと映る時もあるかもしれませんが、観光客は、何も高速がなくて行くのに時間がかかる和歌山よりもっと早く行ける他所へ行こうということになります。工場の立地を考えている企業は、そんな不便な和歌山より、もっとアクセスの便利な他所にしますよとなってしまうがちです。そうすると、知らず知らずのうちに、働き場所が少なくなり、若者が他所へ行ってしまい、地域は寂しくなっていくのです。

私は、30年余、他所にいて、郷土和歌山の事態の推移に色々と切ない気持ちを持ちながら、むこうから和歌山を見てきました。その経験を生かして和歌山の現実がよく見えることもあります。そして、その知見のすべてを生かして県の行政の改革と展開をコツコツと実行しています。

しかし、何もこれは他所に行っていた人ばかりにできることではありません。ずっと和歌山にいる人だって、この素晴らしい和歌山の資源をどうやって世界中、日本中にアピールして我々が栄えることができるかを考え、実行できるはずです。そのためには、ちょっと冷静に「むこう側からものを見る」ということが大事です。そうして色々作戦を練って実行し、さらには、販売促進プロモーションのようにむこう側に出撃して、積極的に勝負することも大事です。さらに「むこう側の人々に」選んでもらえるように、我々自身とこの和歌山を磨くことも大事でしょう。



企業進出協定式での仁坂知事。
ミナベ化工(株)のヤシガラ活性炭工場の増設に伴う進出協定です。
(関連記事 P6)

今月の和歌山県政トピックス

*最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●財団法人竹中養源会に感謝状

・県内で最も歴史のある奨学会「財団法人竹中養源会」（和歌山市、竹中泰三理事長）の創設70周年記念式典が9月13日、和歌山市のホテルアバローム紀の国で開催されました。

・全国から約100人が集い記念講演や祝賀会が行われたほか、同会の長年の人材育成と社会貢献に対し仁坂知事と県教育委員会から感謝状が贈られました。そして、同会からは、和歌祭を鮮やかに描いた坂井芳泉筆「明光浦雑賀祭之図」（6曲1双）が県立近代美術館に寄贈されました。



竹中泰三理事長

・同会は、綿糸・綿布商を営んでいた竹中源助さん（明治10年～昭和33年）が、経済的事情で有能な人材が勉学できないことは国家の損失と昭和15年に創設。戦争で一時中断したが卒業生は851人（在學生も含めると888人）を数え、慶応大教授の竹中平蔵さんら日本社会のリーダーとして活躍する人を育成、輩出しています。

・式典では竹中一夫理事が「同会は毎年学生とOB、役員、さらに家族も含めて交流し、“和歌山”でつながり、バトンタッチしているアットホームな会です。人間として大きな器にという創始者の思いに多大な協力をいただき、祖父も今ほほ笑んでいることと思います」と挨拶されました。

・知事が、日本育英会より3年早い奨学会の創設という源助氏の先見の明や、「誠実に働き、自らは質素に生き、世の人のために尽くせ」という源助氏のモットーなどに触れながら祝辞を述べ、竹中理事長の感謝の言葉、卒業生や学生代表の謝辞などが続いて行われました。

・記念講演会では、東京大学大学院医学系研究科教授の辻省次さん（12期生）が「医学の最前線―難病に挑む」と題して、県教育史編纂委員で昭和大学講師の曾野洋さん（30期生）が「今、紀伊徳川家の近代教育戦略に学ぶべきこと」と題して話されました。

●和歌山県出身漫画家 中村真理子さん県庁を訪問

・中村さんは、和歌山市出身の漫画家で、講談社の女性コミック誌「BE・LOVE」で「レッド・リンー紅い梅と蒼い梅ー」を連載中です。この作品は、梅の産地みなべ町を舞台とし、老舗梅干し会社の娘リンと義理の姉のメフィアを中心に描かれています。また、和歌山の梅はもちろん、南方熊楠、和歌山市、田辺市、白浜町などの市町村が紹介されています。

・県庁を訪れた中村さんは、作品の原画を持参され、創作活動について報告されました。

●「新農林水産業戦略プロジェクト 第4弾」！！

★新農林水産業戦略プロジェクト 第4弾！！

・第1弾（伊都地方のトマト）、第2弾（海草地方の貯蔵みかん他6プロジェクト）、第3弾（那賀地方の黒豆の枝豆他2プロジェクト）に続き、9月24日、第4弾として、下記2プロジェクトを承認しました。

・今後も、地域の魅力や特色を生かした地域おこしを積極的に働きかけ、取組の拡大に努めていきます。

①ミニトマト(赤糖房・優糖星)の高品質生産及び加工品開発、販売促進

(みなべいなみ農業協同組合(印南町))

糖度向上のための細霧冷房の導入、加工品(ドレッシング、ジュース)の開発、首都圏や関西の百貨店等での試食・試飲によるPR。

②熊野牛の生産拡大と加工品開発、販売促進 (和歌山県熊野牛ブランド化推進協議会(県全域))

優良血統繁殖雌牛の導入、加工品(ローストビーフ等)の開発、県外のレストランへの販路開拓、県内での熊野牛取扱い料理店の拡大。



●平成21年度補正予算見直しに係る政府説明

・10月7日、仁坂知事が上京。平野官房長官、岡田外務大臣、藤井財務大臣、前原国土交通大臣、川端文部科学大臣などを訪問し、近畿自動車道紀勢線の4車化や地域産学官共同研究拠点の整備などについて説明しました。

・前原大臣との会談では、これまでの都会の高速道路整備に、地方からの財源が貢献してきたことを話し、近畿自動車道紀勢(御坊～紀伊田辺間)4車線化の必要性を強く主張しました。

・しかし、今回、平成21年度補正予算に盛り込まれた近畿自動車道紀勢線(御坊～南紀田辺間)の4車線化が、執行停止の対象となったことは非常に残念なことです。

・本県にとって、地域産業や観光振興に大きく寄与し、年々増加する渋滞対策や対面通行による衝突死亡事故などの重大な交通事故への対応などから見て、どう考えても作るべき高速道路なので、今後も、速やかに着手されるよう粘り強く政府に訴えていきます。

● 県と南海電鉄との合同PRイベント開催

～日本一の柿と天空（橋本高野間を走る特別展望車）のコラボレーション～

・10月3日、県と南海電鉄は、日本一の生産量を誇る「和歌山の柿」の販売促進と本年7月から運行を開始した「天空（てんくう）」の利用促進を目的に、南海電車難波駅2F中央改札口前コンコースにおいて、初めての合同PRイベントを実施しました。

・仁坂知事は「今年の柿は天候にも恵まれ、なかなかの出来に仕上がっている。ビタミンCが豊富な柿を食べてインフルエンザを防止して下さい。」と和歌山の柿を大いにPRしました。

・そして、富安県会議長や平木議員、服部議員、菖蒲奥県農会長や産地JA組合長などが柿の絵柄が入った法被をまとい、約1,000名の駅利用客に和歌山の柿「刀根早生」と天空や高野山のパンフレットを配布しました。

・イベントでは柿と天空のPR用映像を流すほか、高野山開創1200年記念大法会イメージキャラクター「こうやくん」が登場し、会場を盛り上げました。



・また、10月10日（土）～12日（祝）3日間、南海高野線極楽橋駅において、高野山から難波方面に向かう「天空」利用のお客様に対して、柿をプレゼントしました。

・天空は、南海高野線、橋本～極楽橋駅間（19.8km）を約50分で結びます。なお、平成21年7月3日から、通常期（3月～11月）は水木曜を除き毎日（水木曜が休日の場合は運行）、冬季期（12月～2月）は土曜休日に1日2往復運行します。



「天空の特徴」～（南海電鉄 南海高野ほつと・ねっと）から抜粋～

座席は、線路の北側・西側に広がる紀の川・不動谷川や険しい山間の風景を見渡すことができる「ワンビュー座席」や、4人掛けの「コンパートメント座席」などを設けています。

◎2号車には森林の空気(外気)を取り入れる「展望デッキスペース」を設置しています（全国の手私鉄で唯一）。

世界遺産登録5周年を迎えた高野山は、そろそろ紅葉に染まり、山粧う時期、空海（弘法大師）に出会いに、皆さん天空に乗って是非お越し下さい。

●和歌山出身芸能県人会が設立10周年記念イベント開催

・「和歌山出身芸能県人会」が今年設立10周年を迎え、10月の記念イベント開催の報告に県庁を訪れました。

・同県人会は、平成11年10月に、和歌山県出身者19名が集まり、設立しました。翌年「和歌山ラブソング21」を自主制作盤でCD発売し、その後、日本クラウンより全国発売となりました。平成13年には、JR大阪駅地下で実施した「和歌山県観光キャンペーン」に出演し、同曲を披露し、和歌山県を大いにPRしました。また、設立当初から「歌と笑いのチャリティーショー」や県内の福祉施設訪問を行うなど福祉活動にも力を注いでおられます。

・この度、10周年の区切りに10月18日「おおきにふるさと 大宴会！」と題して、グランヴィア和歌山（和歌山市）において県民と交流のできるイベントを開催する予定です。

・県庁を訪れた桂文福会長は、「今まで10年活動させてもらった“ふるさと”のみなさんへの恩返しをさせていただきます。」と、熱く語りました。



写真前列左から、歌手の日高光路さん、会長の桂文福さん、歌手の賀川けい子さん、歌手の岡村康司さん、後列左から、事務局の杉谷和昭さん、タップダンサーの田中美和さん、右のお二人が漫才コンビの073（おーなみ）さんです。

●白浜町消防団が全国女性消防操法大会に出場

・白浜町日置川支団の女性団員が、10月22日（木）に横浜市で開催される第19回全国女性消防操法大会（隔年開催）に出場することとなりました。

・全国女性消防操法大会は、全国47都道府県から精鋭の女性消防隊員が集い、消防操法の迅速確実な動作及び操作を競うものです。

・女性消防団員10名は、全国大会出場に向けて、本年1月16日の結成以来、毎週2回、規律・動作訓練、ホース延長・操作訓練、実放水訓練等を行っています。

・9月27日には、仁坂知事が、全国大会に向け練習に励む団員を訪れ、家庭や勤務がありながら、長い期間練習に励まれていることへの感謝と、練習の成果を全国大会本番で十分に発揮されることへの期待を述べました。



●「企業の森」事業に1団体が参画し、51箇所に

- ・本県が進める「企業の森」事業に新たに「ドコモ紀の国・明恵峡の森（有田川町）」が参画することになり、10月9日に県庁で調印式を行いました。県が昨年行った、企業の森への参画依頼を快く受けて頂き、和歌山県の森林に、まごころこもった植栽と保全活動を行うこととなりました。
- ・(株)NTTドコモは、1999年から自然環境保護活動の一環として、「ドコモの森」づくりを推進しています。
- ・現在「企業の森」は県内で50箇所あり、今回の(株)NTTドコモの参画で51箇所となります。県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。

● 植樹祭マスコット「キノピー」がたま卿と対面！

● 木の神様「伊太祈曽神社」に全国植樹祭の成功祈願

- ・平成23年春季に田辺市で開催される、第62回全国植樹祭のPR企画として、シンボルキャラクター『キノピー』が、全国区の人気者となった和歌山電鉄スーパー駅長「たま」を表敬訪問し、たま卿の人気にあやかり、植樹祭のPRを行いました。
- ・その後、『キノピー』は頭に「全国植樹祭成功！」のはちまきを締め、平安期の熊野詣装束に身を包んだ女性たちと共に、木の神がまつられる和歌山市の伊太祈曽神社で全国植樹祭の成功を祈願しました。（写真下）
- ・午後からは同市内にある四季の郷公園で行われたハギ祭に参加し、観光客たちとふれあい、子供たちに大人気でした。
- ・キノピーは、今後とも、いろいろなイベントに参加し、積極的なPR活動を行います。



たま卿と対面するキノピー



成功祈願を行うキノピー

● ミナベ化工（株）がヤシガラ活性炭工場を増設

- ・この度、(株)ミナベ化工（みなべ町）が、ヤシガラ活性炭工場を同社敷地内に増設することとなりました。生産される製品は、タバコフィルター用活性炭が主要で、他に浄水器用活性炭、食品分野向け活性炭を生産します。平成19年以来の企業立地件数が71件となりました。

●第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）開催

・「トキめき新潟国体」が9月9日から13日の水泳競技に引き続き、9月26日から10月6日までの計16日間にわたり新潟県新潟市他で開催され、本県選手団は、男女総合成績第43位（705点）、女子総合成績第35位（441点）となりました。

・新潟国体では、弓道の成年女子遠的で初優勝したほか、フェンシング成年男子フルーレで4年ぶり11回目、レスリング成年男子フリースタイル60kg級、カヌー成年男子カナディアンシングルのそれぞれで優勝し、ソフトテニス少年女子、陸上競技少年男子100m、800mで準優勝を飾るなど、本県ジュニア選手やオリンピック選手・ナショナルチームの選手達がふるさと選手として新潟国体で活躍し、総合成績に大きく貢献していただきました。6年後の第70回和歌山国体に向けて総合成績を向上させていくため、県競技力向上対策本部並びに各競技団体との連携をより一層密にし、優れた指導者の養成・確保及び競技者の発掘・育成・強化を強力に推進してまいります。

【総合開会式の様子】



フェンシング成年男子フルーレ
優勝 和歌山県選抜チーム

レスリング成年男子フリースタイル
60kg級優勝 湯元 健一選手

●2009年テザー級世界選手権大会が盛大に開催されました！

・9月18日～27日、全長4.5メートルの2人乗りディンギーヨット「テザー」による世界選手権大会が、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定された和歌山セーリングセンターにおいて、盛大に開催されました。

・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、オランダから19艇、国内からは59艇が参加しました。

・表彰式には（財）日本セーリング連盟 河野博文副会長をはじめ、来賓として仁坂知事も出席し、盛大に開催されました。



●田辺・弁慶映画祭2009開催

・アジアの若手監督の登竜門と言われる「田辺・弁慶映画祭2009」が、10月1日～4日まで、紀南文化会館にて開催されました。今年のコンペ作品には日本、中国、韓国の若手監督の作品5作が上映され、招待作品には、昨年、市民審査賞を受賞した沖田修一監督の新作「南極料理人」や、平成18年に田辺市でロケを行った「幸せのスイッチ」等、7作品が上映されました。

・3日には、扇ヶ浜の特設舞台で表彰式が行われ、開催に際し、仁坂知事は「この田辺・弁慶映画祭は、東京国際映画祭のパートナーシップイベントとして実施されおり、これは全国にも珍しく、非常に名誉なことである。」と挨拶し、今年中国映画「ナーダムを探して」が特別審査員賞を受賞し、知事がプレゼンターを務めました。

・同日、田辺市では「弁慶まつり」が開催されており、よさこい踊りや、花火大会が実施され、扇ヶ浜は多くの来場者の熱気で盛り上がりました



田上田辺・弁慶祭実行委員会委員長と
たなべえ（田辺商工会議所キャラ）

ふるさと和歌山応援寄附の御案内

ふるさと和歌山応援寄附の取り組みを始めて1年半が過ぎました。昨年度は、112人の方から3,235万3千円の「ふるさとを大切にしたい」「自分の出身地を応援したい」という想いのこもった、ご寄附をいただいたこと、あらためて厚く御礼申し上げます。

また、寄附していただいた際に力強い応援メッセージも添えていただいています。

私どもは、それらメッセージ一つひとつに励まされ、これからも和歌山県を想ってくださる皆様と共に成長していき、元気な和歌山県の創造に努めていきますので、引き続き和歌山県を応援していただきますようよろしくお願い申し上げます。

また、ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」をご覧ください。下記問い合わせ窓口までご連絡ください。

制度紹介のリーフレット（ふるさと和歌山応援寄附の概要、税制上の優遇措置の説明等）も用意しています。また、「ユーチューブ」にも「ふるさと和歌山応援寄附」についての知事のメッセージを掲載しておりますのでご覧ください。

ふるさと和歌山応援サイト トップページ



○本年12月末までに寄附していただければ、来年の確定申告により平成21年分の所得税及び平成22年度の住民税について控除を受けることができます。

○ふるさと和歌山応援サイト(URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>)
ふるさと和歌山応援サイトでは、寄附の申し出時に公表に同意していただいた方のお名前やメッセージを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

お問い合わせ・申込窓口

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 塩路、川口

電話 073-441-2186(直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

お問い合わせ窓口

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 谷

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059



話題沸騰のプロモーションビデオ「和歌山の柿」。ご覧いただく場合はこちら！↓

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071700/kakinouta/index.html>

～柿といえば和歌山！～

和歌山県の柿は平成20年産で53,900tと全国の約2割の生産量を占め、順位は第1位（全国生産量266,600t）。和歌山のとおきフルーツなのです。

～おいしさをバトンタッチ、産地のリレー出荷～

バラエティ豊かな和歌山の柿。出回る時期も違えば、形や食感も様々。どんな種類があるのかご存じですか？

たねなし柿

和歌山のたねなし柿の出荷は9月上旬から始まり、中谷早生からスタート、9月中旬の刀根早生、10月上旬の平核無と続いてゆきます。食感はまるやかでジューシー。渋柿なので選果場で脱渋処理が行われます。



富有柿

10月下旬から12月中旬にかけて出回る品種です。甘柿なので脱渋処理は行われません。種が少なくて食べやすく、食感はシャキシャキして甘みのある柿です。



紀の川柿

樹上で脱渋した柿で、果肉にゴマと呼ばれる黒い粒々がびっしり詰まっているのが特徴です。10月下旬から11月中旬に出回り、紀北地方から生まれた個性化商品です。



～しっとり甘い、あんぼ柿～

甘い物がほしい時、やわらかい干柿の「あんぼ柿」はいかがですか。自然な甘みがほのぼのとした気分させてくれます。

あんぼ柿の起源は江戸時代中期といわれ、皮をむいた渋柿を縄につるし、天日干しをしていたので天干柿と呼ばれていました。やがてあんぼ柿という馴染みやすい名前となり、冬のおやつとして親しまれるようになりました。



和菓子の元祖、あんぼ柿

～串柿の産地、かつらぎ町四郷～

正月の祝い物で使われる串柿は、一本の串に10個の柿をさして「いつもにここにこ(2個2個)仲むつ(6つ)まじく」と、家族の和と幸を願う心をかけていると言われています。

伊都郡かつらぎ町の四郷地区は串柿の産地で、約110戸の農家が生産しています。標高300メートルの当地は串柿作りの適地であり、木枯らしが吹く頃になると、串柿作りの最盛期を迎えます。



串柿作りに追われる生産者

～柿の機能性～

柿はビタミンA、Cが豊富で、体の抵抗力を高めカゼの予防におすすめです。

また、お酒を飲む前に柿や干柿を食べておくと、二日酔い防止に効果的。柿に含まれるタンニンと食物繊維がアルコールの吸収を抑え、果実中の酵素がアルコール分解を促します。

また、柿1個(200g)を食べると、1日のビタミンC摂取量を満たすことができます。



体にいい成分がいっぱい!

～柿のこぼれ話～

柿の学名は「ディオピロス・カキ」。ギリシャ語で「神の食物のカキ」という意味です。日本語の読み方が学名に使われていることから分かるように、「KAKI」は世界に通用する果物と言えます。「桃栗三年柿八年」ということわざは、発芽から結実までの期間が長いことを例えて、成果をあげるには長い年月がかかるとういうことを表しています。



～ 温山荘、漆器の町、文化財（藤白神社、長保寺）海南市 ～

海南市は、旧海南市と下津町が平成17年4月に合併して誕生しました。

温山荘

・温山荘は、関西有数の規模を誇る日本庭園で、大正時代に造園されました。日本で初めて動力伝動用革ベルトを明治21年に製作し、その後、ベルトメーカーとなった新田帯革製造所（現 ニッタ株式会社）の創業者、新田長次郎翁が造園。当初は翁の健康維持のために使用していた翁でしたが、一般人にも解放しました。「温山荘」という名は、翁が「温山」の雅号を持っていたので、その名を求め、応じた東郷平八郎元帥が命名したことから。本館には、東郷平八郎元帥などの直筆扁額があり、秋にはコンサートなどのイベントもあります

漆器

・わが国の四大漆器産地（会津、越前、山中、紀州）の1つ、紀州漆器は、海南市の黒江地区を中心に生産されています。
・起源は、室町時代ともいわれ、江戸時代には紀州藩の保護のもとで発展、堅地板物の成功や蒔絵による加飾の導入などで、地位を不動のものにしました。昭和53年には国から「伝統的工芸品」の指定受け、和歌山を代表する伝統産業となっています。



文化財

藤白神社

・万葉の時代の創建と伝えられる藤白神社。紀の湯（白浜町）に行幸された時、この地を訪れた斎明天皇の創建と伝えられています。熊野に向かう信仰の道にあった多くの神社（王子）「熊野古道九十九 王子」の中でも格式のある「五体王子」の1つだった藤白（ふじしろ）王子跡があります。近くには、19歳の若さで殺害された悲劇の王子、有間皇子の墓もあり、毎年11月11日には、藤白神社で「有間皇子まつり」が催されます

長保寺

・長保2年、一条天皇によって建立されたと伝えられる。江戸時代には紀州徳川家の菩提寺となり、将軍となった5代吉宗、13代慶福を除く歴代の藩主が静かに眠り続けています。本堂・多宝塔・大門はともに国宝に指定されており、この3点が国宝というのは全国で奈良の法隆寺と長保寺だけです。

海南市ホームページ <http://www.city.kainan.wakayama.jp/icity/>

～編集後記～

10月に入り、和歌山はこれから護摩山、高野山と順々に紅葉の時期を迎え、紀伊の山々が秋を粧う季節です。そして、和歌山が誇る「柿」や「みかん」など、山の幸の収穫最盛期を迎えるとともに、その後「クエ」や「伊勢エビ」などの海の幸の旬が訪れます。

さて、インドネシアで9月30日に発生したスマトラ沖地震により、多くの住居が倒壊し、大勢の方々が命を失うなど、大変な被害がありました。被災された方々には、謹んでお悔やみを申し上げたいと思います。

和歌山県には、過去幾度となく地震・津波災害に見舞われてきた歴史があります。1854年の安政南海地震の際、広村（現在の和歌山県広川町）の「濱口梧陵」が稲わらに火を放ち、高台へと誘導して津波から村民の命を救ったという実話に基づく物語「稲むらの火」が昭和12年から21年まで、小学校の国語の教科書に掲載されていました。

また、「濱口梧陵」は、村の復興にあたりと同時に、私財を擲って高さ5m、長さ650mにもおよぶ防波堤を築きました。この防波堤は、約90年後の1946年に再び広村を襲った昭和南海地震の津波の被害を防ぐのに大いに役立ったということです。

広川町では、「濱口梧陵」の功績を称え「稲むらの火祭り」を15年前から行い、防災への意識の高揚を行っています。

政府の地震調査研究推進本部によると、南海地震が今後30年以内に発生する確率は40%程度、東南海地震は50%程度と予想されています。地震や津波、風水害などの自然災害による被害を少しでも減らすには、防災に対する県民全員の意識の向上が不可欠です。そのためには、過去の偉人の業績をよく「学び」、正しく「語り継ぐ」ことが必要であると思います。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年（平成21年）10月 NO.19

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022